



民藝 MINGEI

美は暮らしのなかにある

[上から] 緑黒釉掛分皿 因幡牛ノ戸(鳥取) 1931年頃 / 流描皿 河井寛次郎 京都 1927-28年頃 / 藍鉄絵紅茶器 濱田庄司 栃木 1935年頃 / 食器棚 イギリス 19世紀 いずれも日本民藝館蔵 Photo:Yuki Ogawa

観覧料 一般 1,700円(1,500円) 高校・大学生 1,000円(800円) 中学生以下無料

※()は、前売りまたは20名以上の団体料金 ※いずれも税込 ※障害のある方、難病患者の方は、手帳(ミライロID可)または受給者証の提示により本人と付添者2名まで、当日料金の半額でご覧いただけます。 ※高大生チケットあるいは障害者チケットを購入された方と中学生は、当日美術館の受付で証明となるもの(学生証、障害者手帳など)をご提示ください。 ※名古屋市交通局発行の「ドニチエコさっふ」「一日乗車券」「24時間券」を当日利用して来館された方は100円割引。 ※「名古屋市民美術館常設展定期観覧券」の提示で当日料金から200円割引。 ※いずれも他の割引との併用はできません。 ※会期中、本展の観覧券で常設展もご覧いただけます。

前売券・当日券は、アソビュー!、KKday、チケットぴあ(Pコード:687-037)、ローソンチケット(Lコード:42991)、CNプレイガイド、セブンチケット、Boo-Wooチケット、主なコンビニエンスストア、プレイガイド、名古屋市美術館(9月8日まで)などでお求めいただけます。(前売券販売期間は8月5日[月]～10月4日[金])

宮入圭太 アート サコッシュ セットチケット

販売価格:3,200円(税込) 数量限定

今、注目の染色家/アーティスト・宮入圭太さんの描きおろし作品があしらわれたサコッシュ(斜め掛けの小型バッグ)と、本展観覧券(一般)1枚がセットになったチケットです。

※美術館窓口ではご購入いただけません



サイズ(約):本体/横170×縦225mm
持ち手/幅10×長さ1150mm
素材・色:キャンバスにプリント、生成

●チケット購入時に発券されるグッズ引換券を、本展会場特設ショップ(1F)にてサコッシュとお引き換えください(会期中のみ有効)。発送には対応していません。●セットのサコッシュの会場販売はありません。同サイズで別デザインのサコッシュを1,800円(税込)で会場販売予定です。●アートサコッシュセットチケットはチケットぴあでのみ数量限定で販売

名古屋市美術館
Nagoya City Art Museum



〒460-0008 名古屋市中区栄2-17-25
〔芸術と科学の杜・白川公園内〕
TEL:052-212-0001 FAX:052-212-0005
<https://art-museum.city.nagoya.jp/>

【ご来場は公共交通機関をご利用ください】地下鉄東山線・鶴舞線「伏見」下車、5番出口から南へ徒歩8分 / 地下鉄鶴舞線「大須観音」下車、2番出口から北へ徒歩7分 / 地下鉄名城線「矢場町」下車、4番出口から西へ徒歩10分

イベント

① 講演会「暮らしのなかの民藝」

〔日時〕 10月5日(土) 14:00～15:30(約90分)※開場は13:30
〔講師〕 森谷美保(本展監修者・美術史家)

② 講演会「民藝:伝統／産地と今をつなぐもの」

〔日時〕 11月2日(土) 14:00～15:30(約90分)※開場は13:30
〔講師〕 濱田塚司(本展監修協力者・関西学院大学教授)

③ 学芸員による解説会

〔日時〕 10月12日(土)、11月17日(日)
14:00～15:00(約60分)※開場は13:30
〔講師〕 井口智子(名古屋市民美術館学芸課長)

①～③いずれも

〔会場〕 名古屋市美術館2階 講堂

〔定員〕 180名(当日先着順、定員になり次第締切)

〔参加費〕 無料(ただし、聴講には展覧会観覧券(観覧済みの半券も可)が必要です)



民藝

ある
なかに
暮らしの
美は

MINGEI
The Beauty of
Everyday Things

MIN GEI

2024 10/5 sat.
12/22 sun.

〔開館時間〕9:30-17:00、金曜日は20:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

〔休館日〕月曜日(ただし、10月14日[月・祝]、
11月4日[月・休]は開館)、10月15日[火]、11月5日[火]

〔主催〕名古屋市教育局・名古屋市美術館、
メーテレ、東映

〔後援〕名古屋市立小中学校PTA協議会

〔特別協力〕日本民藝館

〔協力〕静岡市立芹沢鉦介美術館、カトーレック、
名古屋市交通局



上: 呉須鉄絵撫子文石皿 瀬戸(愛知) 江戸時代 19世紀
下: (左から) 角酒瓶 小谷眞三 倉敷(岡山) 1979年、酒瓶 小谷眞三 倉敷(岡山) 1985年頃、栓付瓶 メキシコ 20世紀頃
いずれも日本民藝館蔵 Photo:Yuki Ogawa

本展会場では一部の作品を除き、写真撮影はできません。

〔展覧会公式サイト〕 <https://mingei-kurashi.exhibit.jp/>

〔展覧会公式SNS〕 @mingeiten



名古屋市美術館
Nagoya City Art Museum



約 100年前に思想家・柳宗悦は日常生活のなかで用いられてきた手仕事の品々に美を見出し、「民衆的工藝-民藝」の考えを唱えました。日々の生活のなかにある美を慈しみ、素材や作り手に思いを寄せる、この「民藝」のコンセプトはいま改めて必要とされ、私たちの暮らしに身近なものとなりつつあります。本展では、民藝について「衣・食・住」をテーマにひも解き、暮らして用いられてきた美しい民藝の品々約150件を展示します。また、いまに続く民藝の産地を訪ね、そこで働く作り手と、受け継がれている手仕事も紹介します。さらには、2022年夏までセレクトショップBEAMSのディレクターとして長く活躍し、現在の民藝ブームに大きな役割を果たしてきたテリー・エリス／北村恵子(MOGI Folk Art ディレクター)による、現代のライフスタイルと民藝を融合したインスタレーションも見どころのひとつとなるでしょう。

柳が説いた生活のなかの美、民藝とは何か、そのひろがりと今、そしてこれからを展望する展覧会です。



衣



食



住



上:刺子稽古簞(部分) 江戸時代 18-19世紀 日本民藝館蔵*
下:[左から]流水に桜河骨文紅型着物(部分) 首里(沖縄) 19-20世紀前半 静岡市立芹沢銈介美術館蔵／
絨ショール 青田五良 京都 1930年頃 個人蔵*／厚司(アットウシ) アイヌ(北海道) 19世紀 静岡市立芹沢銈介美術館蔵



上:スリップウェア角皿 イギリス 18世紀後半-19世紀後半 日本民藝館蔵*
下:[左から]染付羊歯文湯呑 肥前有田(佐賀) 江戸時代 18-19世紀 日本民藝館蔵／
漆分盆 江戸時代 18世紀 日本民藝館蔵／網袋(鶏卵入れ) 朝鮮半島 20世紀初頭 日本民藝館蔵

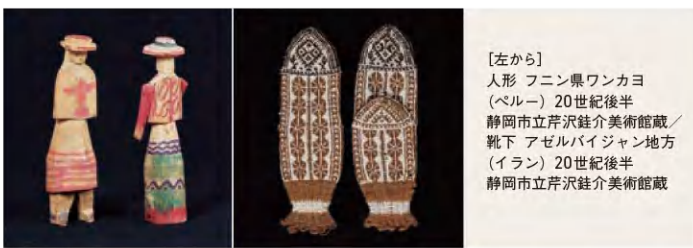


上:桐文行燈 江戸時代後期 個人蔵*
下:[左から]芯切鉢 京都 1920年代後半-1930年代前半 日本民藝館蔵／(左上から時計回りに)手箒 仙台郡山(宮城) 1939年頃 日本民藝館蔵、
鹿沼箒 下野鹿沼(栃木) 1939年頃 日本民藝館蔵、手箒 信州(長野) 1939年頃 日本民藝館蔵／円座 朝鮮半島 1930年代 日本民藝館蔵／
椅子 オーストラリア 19世紀初頭 静岡市立芹沢銈介美術館蔵

* Photo: Yuki Ogawa

第Ⅲ章：ひろがる民藝 — これまでとこれから

柳宗悦の没後も民藝運動は広がりを見せました。濱田庄司、芹沢銈介、外村吉之介が1972(昭和47)年に刊行した書籍『世界の民芸』では、欧州各国、南米、アフリカなど世界各国の品々を紹介。各地の気候風土、生活に育まれたプリミティブなデザインは民藝の新たな扉を開きました。一方、民藝運動により注目を集めた日本各地の工芸の産地でも、伝統を受け継いだ新たな製品、新しい世代の職人たちが誕生しています。本展では国内5つの産地から、これまでと現在作られている民藝の品々や、そこで働く人々の“いま”を紹介します。そして、本章最後では、現在の民藝ブームの先駆者ともいえるテリー・エリス／北村恵子(MOGI Folk Artディレクター)のコレクションや、彼らが世界各地で見つけたフォークアートと現代の暮らしを融合した「これからの民藝スタイル」を、インスタレーション展示で提案します。



[左から]
人形 フニン県ワンカヨ
(ペルー) 20世紀後半
静岡市立芹沢銈介美術館蔵／
靴下 アゼルバイジャン地方
(イラン) 20世紀後半
静岡市立芹沢銈介美術館蔵



各産地の製作風景
[左から]
鳥越竹細工(岩手)*／
丹波布(兵庫)*



本展特設ショップも
お楽しみに！
MOGI FolkArtディレクターの
テリー・エリスと北村恵子、
自邸の愛蔵品*

関連イベント ※イベントの詳細は名古屋市美術館公式サイトでご確認ください。

ワークショップ「丹波布にふれて、コースターをつくろう！」

[日時] 12月7日(土) 1回目 11:00～12:30／2回目 14:00～15:30

[講師] イラズムス千尋(丹波布技術認定者)

[会場] 名古屋市美術館2階 講堂

[定員] 各回30名(応募は2名まで) 小学校5年生以上(小学生参加の場合は保護者同伴)

[応募方法] 事前申込制 先着順、定員になり次第締めの切り
名古屋市電子申請サービスにアクセスし、「名古屋市美術館」で検索、ご応募ください
1口2名まで応募可、重複応募はご遠慮ください。10月19(土)9:00～申込開始

[参加費] 無料 ただし参加には観覧券(観覧済みの半券も可)が必要

[材料費] 一人500円(税込) 参加当日お支払い、お支払いは現金のみ

[持ち物] 裁縫セット(縫い針、ハサミ)、縫い糸は講師が用意

10月26日(土)、27日(日)は「おしゃべりOKデー」

友人やお子様と展示品の前に、自由に会話を楽しみながら鑑賞いただけます。
両日には「サイエンス&アート・フェスティバル」を開催。ご家族で楽しめるイベントも予定しています！